



令和2・3・4年度 戸田市教育委員会研究委嘱

研究紀要

〈研究主題〉

疑・思・創

～社会の一員として未来を生きていくために～



戸田市立喜沢中学校

〒335-0014 埼玉県戸田市喜沢南1-6-29
TEL(048)444-6400 FAX(048)443-9485



喜沢中Facebook



喜沢中HP

ごあいさつ

戸田市教育委員会 教育長 戸ヶ崎 勤

戸田市喜沢中学校におかれましては、戸田市教育委員会研究委嘱校として、「疑（ぎ）・思（し）・創（そう）」～社会の一員として未来を生きていくために～を主題として研究に取り組まれました。このたび、これまでの成果を紀要にまとめられましたことに心から敬意を表します。

さて、これからの将来の予測が困難な時代においては、自ら課題を見付け、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質・能力を育成していくことが必要です。そのために、教育課程の充実や教科等横断的な学びの推進が求められております。本市においても、実社会・実生活で生きて働く力の育成のため、産官学の知のリソースを活用したカリキュラム・マネジメントの実現や地域と連携したPBL（Project-Based Learning）を推進しております。

このような中、喜沢中学校におかれましては、令和2年度から研究を積み重ね、総合的な学習の時間を中心にPBLを取り入れた実践を通して、研究テーマである三つの力を高める研究に取り組まれました。そして今年度は、PBLの学習を各教科等の学習に落とし込むことができるように研究を進めてこられました。「総合的な学習の時間」と「教科」の往還は、今後ますます大切な視点になってくると考えます。本研究の成果が、御参会の先生方とおして、各学校の教育活動に生かされることを期待しております。

結びに当たりまして、聖ドミニコ学園カリキュラムマネージャー、21世紀型教育機構理事 石川 一郎 様をはじめとする御指導を賜りました先生方に心から御礼申し上げます。また、益田校長先生のリーダーシップのもと、研究を推進して下さった教職員の皆様並びに関係の方々感謝申し上げます。挨拶といたします。

戸田市立喜沢中学校 校長 益田 光行

すぐに来る6G（6th Generation）の時代。これは日本だけではなく世界的なことです。子供たちが社会に出ていく10年後、日本が外国と肩を並べていくためには現在すでにある「ドローン技術」や「VR・AR技術」等を活用して「全ての人に優しい世界」をどのように実現していくのか、新しい技術で何ができるのか、どうすれば全ての人暮らしやすい社会を実現できるのかを発想、想像する力がますます必要となります。そのために学校では「令和の日本型教育」として個別最適な学びと協働的な学びをICTを活用しながら行い、子供たちが社会に出て活用できる資質、能力を育てることに努めています。特に本校では、令和2年度より戸田市教育委員会の委嘱を受け「疑・思・創～社会の一員として未来を生きていくために～」を研究主題として、全教職員で教科等横断的にPBLの研究を進めてきました。

研究1年目は、三つの部会において研究の土台づくりを行い、2年目は、総合的な学習の時間において実践的な研究を行いました。そして3年目となる今年度は、各教科においての実践を行い本日の発表に至っております。成果と課題につきまして多くの御指導をいただければ幸いです。そして本日の発表を糧として今後も教職員一同さらなる研究に努力する所存です。

結びに本日まで懇切丁寧に御指導をいただきました、聖ドミニコ学園カリキュラムマネージャー、21世紀型教育機構理事 石川 一郎 様 戸田市教育委員会教育長 戸ヶ崎 勤 様をはじめ戸田市教育委員会の皆様方に心より御礼申し上げます。

研究の成果と課題

実践を通しての成果

〈各教科、総合的な学習の時間を通しての生徒の変容〉

- ・自分がやっていることを正しくできているかどうか確かめる姿や、一度立ち止まって自分は何ができていないのか考える姿がみられた。
- ・ICT機器の充実も含め、分からない問題に対しても、自ら調べたり、友達に聞くなど粘り強く解決しようとする態度が身に付いてきた。
- ・これからの先が読めない時代において想像力を働かせるという意味で、自分の解答がまとまりそうにないときでも、「こうなるのではないか」という仮説を立てて物事を考える力がついてきた。
- ・PBL形式の授業だけではなく、普段からも、自分たちで課題を見付け、単元の内容等を踏まえ思考を深められるようになってきた。

〈疑・思・創の育成に向けて、教員が意識した視点や取組〉

- ・単元ごとの最終的な目標を生徒に考えさせ、練習方法などを自分たちで考えさせた。
- ・実生活との関連を意識して課題に取り組ませた。
- ・新しい取組を始める際に、小学校や今までの学びを復習し、これから取り組む課題の計画を立てさせた。つながりを意識させることで主体的に臨む意欲をもたせた。
- ・はじめに仮説を立て、相手や目的意識を明確にすることで話し合いが進んできた段階でも課題に立ち返ることができるようにした。
- ・Chromebookのカメラ機能を活用し、客観的に自分を振り返る機会を設け、ロイロノートを活用し、情報の整理・分析を行う機会の確保。
- ・総合的な学習の時間のPBLで活用できるように、土台となる基礎的・基本的な知識・技能の習得を心がけた。

実践を通しての課題

〈総合的な学習の時間のPBLについて〉

- ・客観的な評価方法について。
- ・発達の段階に応じた課題設定の難易度の判断について。大テーマと個人テーマとのつながりについて。
- ・グループごとの進度の違い、スケジュール管理について。
- ・教員の支援方法について（補助発問や頻度、軌道修正の加減）
- ・時間、予算、外部交渉など、計画したプロジェクトを進めていく上での難しさがあること。
- ・学年ごとの年間指導計画への組み込み。

研究主題 「疑・思・創」 ～社会の一員として未来を生きていくために～

研究主題の設定理由

これからの予測困難な時代を、社会の一員として生きていく為に、中学生として身に付けてほしい力、伸ばしたい力を考え、主題である3つの言葉にまとめた。

「疑」何事も一度疑ってみる。疑問をもつ。

「思」考えを巡らせ、思案する、考察する。

頭や心で様々なことを考える。

「創」新しいものを創り出したり、表現していく。

正解や答えが明確ではないこれからの未来に向けて、様々な課題や問いに対して、自ら考え、ときには自分自身の考えや物事を疑い、新たに創造したり、表現する力を各教科や総合的な学習の時間を通して、身に付けさせていく。これらを日々の授業で実践していく中で、これからの社会を生きていくために必要な力が養われると考えた。

3年間の研究の取組

研究1年目

- PBL部会、特別支援部会、サステナブル・イノベーション部会の3部会で研修を実施。
- ・疑思創を育てるための効果的な手法であると考えられるPBLを総合の学習に取り入れていく計画の作成。
- ・単元計画表を用いて、生徒自身が何を学ぶのか、単元全体で何ができるようになったか明確にする。学習内容の連続性や系統性の視覚化。

研究2年目

- 総合を主体としたPBLの実践。(主に3年生で年間を通して実施)
- 総合と各教科の関連、視点や取組の共有。

研究3年目

- 総合を主体としたPBLの実践。
- 「疑・思・創」を意識した各教科での授業実践。
- 各教科の「疑・思・創」を高める授業実践事例の作成。

研究実践

- ◇「疑・思・創」を高めるために、総合におけるPBLの実践
 - ・「クラスメートの課題解決プロジェクト」や「戸田市をよりよくするためのプロジェクト」「地域の活性化につながる提案」を通して、個人の身近な悩みや困り事、地域の現状から自ら課題を立て、よりよくするためのプロジェクトを進めた。
- ◇「疑・思・創」の視点を取り入れた、各教科での取組
 - ・各教科で「疑・思・創」の視点を取り入れた授業やPBL型の授業を実践し、身に付けさせたい力の育成を目指した。
 - ・各教科の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、総合のPBLにおける各項目の土台となる力を育成した。
- ◇株式会社エナジードとの連携
 - ・エナジード社の教材を使用し、様々な問いに対して、自分の考えと他者の考えを共有することから、「気付き力、発案する力、実現する力」を身に付けさせた。

喜沢中生に身に付けさせたい力

「疑」何事も一度疑ってみる。疑問をもつ。

「思」考えを巡らせ、思案する、考察する。

頭や心で様々なことを考える。

「創」新しいものを創り出したり、表現していく。

創造する。

総合における「疑・思・創」の視点

- 疑の視点
 - ・自分が考えたテーマや内容を一度疑ってみる。「本当にこのテーマ・内容でいいのか?」「もっと違う考え方はないか?」
- 思の視点
 - ・自分の思いや考えを表現し、整理させる。「なぜ?どうして?」という問いを教員が意識して、生徒に考えさせる。
 - ・自分が良いと思った考えや思考が、誰かにとってマイナスなものになっていないか考える。(思いやり、様々なことに思いを巡らす)
- 創の視点
 - ・プロジェクトを振り返り、まとめたものを使ってどのようにしたいか考える。
 - ・次に何をしたいか、誰に発信しようかなどを考える。

PBLと「疑・思・創」の関連

